

島根県大田市（国内4例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和6年10月31日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約37万羽）

発生家きん舎の構造：セミウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立6段8列、通路5本、）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は水田と山に囲まれており、発生鶏舎は山の中腹に位置し、周囲は山林に囲まれていた。また、農場内には、山の上から川（川幅約1.5m）が流れていた。
- ② 農場から西方の約1.6kmに位置するため池には、マガモ36羽、コガモ31羽、カルカモ29羽など計104羽のカモ類が確認された。
- ③ 当該農場は、成鶏舎8棟、大雛舎4棟、育雛舎2棟、事務所棟、堆肥舎2棟で構成されていた。このうち、成鶏舎2棟および大雛舎1棟は農場内の坂を上った先に所在し、他の鶏舎群とは100mほど離れていた。発生鶏舎は、当該鶏舎3棟のうちの1棟であった。

3 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時約300日齢）では約23,000羽の採卵鶏が飼養されており、1日当たりの平時の死亡羽数は10羽程度であったとのこと。
- ② 通報前日（10月29日）、発生鶏舎で計17羽の死亡が確認され、翌30日の死亡羽数は7羽に減少したが、同一ケージ内で3羽固まって死亡が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 死亡鶏が確認された場所は、鶏舎の中間地点からやや後方部の壁側のケージであり、直立6段ケージの下から4段目に位置していた。調査時、通報があった発生ケージで1羽の衰弱個体が確認されたものの、それ以外の場所では死亡鶏や異状鶏は確認されなかった。また、発生鶏舎と飼養管理を同一にする隣接の成鶏舎や、他の鶏舎では特段の異状は認められなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、鶏舎の飼養管理を担当する従業員が15名おり、その日のシフトにより、いずれか5名が鶏舎管理（うち2名が育雛舎管理）、4名が除糞作業、1名が鶏舎清掃作業に従事し、その他5名については当日の状況によりワクチン接種等の業務に従事していたとのこと。なお、シフト制にしている理由は、日々異なる業務を行うことで、普段と異なる点等について気づきの機会を増やすためとのこと。
- ② 飼養管理者によると、シフトにより複数鶏舎の管理を従業員に担当させているが、同日中に、担当外の鶏舎の業務に従事させることはないとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域入口には立入禁止看板が設置されており、車両が区域内に進入する際は、農場入口に設置された消毒ゲートと動力噴霧器で車両消毒を行っているとのこと。
- ② 従業員及び外来業者が農場の衛生管理区域に立入る際は、同区域入口脇に設けられた従業員用及び外来者用のそれぞれの更衣室において、農場専用の作業着、長靴に交換し、手指消毒を実施しているとのこと。
- ③ 従業員が鶏舎に立入る際は、鶏舎前室入口に設置された消毒槽（逆性石けん、毎日交換）で長靴を消毒後、前室内にある鶏舎内用の長靴に履き替え、手指消毒を実施

しているとのこと。なお、発生鶏舎とその隣にある成鶏舎 1 棟は、鶏舎前方部分が通路で繋がっており、鶏舎前室は共用であった。また、両鶏舎の飼養管理は同一従業員が担当するとのこと。

- ④ 発生鶏舎では、鶏舎奥妻側壁に設置された排気用ファン（金網あり）が自動制御で運転し、鶏舎手前妻側壁に設置されたクーリングパッドから入気することで鶏舎内換気を行っていた。鶏舎平側壁は、一面が開閉不可能なパネルで塞がれ、最下部のみロールカーテンが設置されていたが、当該ロールカーテンは開放することはない、またカーテンの内側には網目 2 cm の金網が張られていた。
- ⑤ 発生鶏舎から出る集卵コンベアの鶏舎外出口には、金属性のシャッターが設置されていた。
- ⑥ 除糞作業は鶏舎毎に週 2 回実施され、除糞ベルトを稼働させて鶏舎外に糞を搬出するとのこと。除糞ベルトの鶏舎内開口部にはコンパネのフタがあり、飼養管理者によると、除糞作業終了後、従業員が毎回手動で蓋をしているとのこと。
- ⑦ 発生鶏舎と通路で繋がる隣の成鶏舎 1 棟の鶏舎構造は同一であり、調査時、クーリングパッド、金網、壁等に破損箇所は確認されなかった。
- ⑧ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、閉鎖系ラインを通じて自動給餌を行っているとのこと。
- ⑨ 給与水には、塩素消毒された井戸水を使用しているとのこと。
- ⑩ 当該農場では、鶏舎毎のオールイン・オールアウトは行っておらず、飼養ケージのラインごとに鶏の導入・出荷を行っているとのこと。なお、飼養管理者によると、発生鶏舎及び通路で繋がる隣の成鶏舎 1 棟では、直近 1 カ月以内に鶏の導入・出荷はなかったとのこと。
- ⑪ 死亡鶏は毎日朝夕の健康観察時に回収し、鶏舎内に一時保管後、農場内の焼却炉で焼却しているとのこと。また、発生鶏舎から 100m ほど離れた堆肥舎内にある死鳥保管容器で保管し、近隣のレンダリング業者に週に 1 回程度、不定期に搬出しているとのこと。なお、堆肥舎入口には防鳥ネットが設置されており、死鳥保管容器の開口部にもネットが設置されていた。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、野生動物対策として農場周辺に電気牧柵を設置しているが、農場内ではイノシシをまれに確認するとのこと。調査時、事務所から発生鶏舎に向かう道沿い及び発生鶏舎周辺で、イノシシの掘り返しの跡が確認された。
- ② 飼養管理者によると、普段、農場上空等で渡り鳥を見かけることはないが、ヒヨドリやカラスは見かけることはあるとのこと。調査時、発生鶏舎脇の山林でヒヨドリやカラス等の野鳥を確認した。
- ③ 飼養管理者によると、鶏舎内では生きたネズミを見かけることはほとんどないが、鶏舎内に殺鼠剤を設置しており、死んだネズミを確認することがあるとのこと。また、ネズミが鶏舎のクーリングパッドを食い破ることがあり、破損箇所を確認した場合は、都度速やかに修繕していたとのこと。調査時、発生鶏舎内では明確なラットサインは認められなかった。

（以上）